

2023 年度 東洋大学博士学位請求論文要旨

中国における 3 歳未満の子どもを育てる家庭の祖父母協力型保育に関する研究
-上海市調査を通して-

福祉社会デザイン研究科
ヒューマンデザイン専攻博士後期課程
4730170001 尹 曉珊

1. 問題意識と研究目的

中国では、1949 年代の近代中国成立以降、長く乳幼児期の子どもに対して国営企業内での集団保育が行われてきた。1990 年代後半からは、国営企業の改革により、保育施設が激減した。これ以降子どもは、3 歳で幼稚園に入るまで、ほぼ子守りや祖父母により養育される状況になった。2004 年の 10 月の“新聞週刊”では、「中国の子どもの半数近くは、祖父母の協力したうえで育てられている。上海市では、0～6 歳の子どもの 50～60%が祖父母の協力を得ている現状である。広州市では子どもの半数が祖父母の協力を受けている。北京市では、最大で 70%の子どもが祖父母の協力を受けている。子どもが小さいほど、祖父母と同居している割合が高い」と発表されている。

2016 年に中国は、それまでの人口抑制政策を緩和し、人口増加を支持する政策に転換した。それともない、政府は子どもを産むことを推奨する一方で、働く女性の増加による子どもの保育需要への対応をどのように行うのかを問われるようになった。3 歳未満の子どもの保育は、女性が子どもを産み育てる意欲に大きな影響を及ぼしているため、保育の課題が重視され、議論されるようになった（楊 2020）。

近年、子育て家庭に協力する祖父母への支援は、労働経済分野で労働力としての祖父母たちの課題として検討されている。第 1 に、子育て家庭の保育に協力する祖父母は、生産的労働市場から著しく脱落し、有給労働時間を減らしている。第 2 に、祖父母の個人的特徴、家庭内の分業、健康状態、居住地や生活環境、孫の年齢の違いなどによって、就業行動への影響は異なる。このことを踏まえて、祖父母への支援が検討されなければならない（李 2022）。しかし、保育分野では、保育に協力にする祖父母支援の実態についての研究はなされていない。

一方、日本では祖父母手帳の配布や講座の開催をし、韓国では保育に協力する祖父母へ育児教室の開設や現金給付をしている。日本・韓国における祖父母への支えは中国に示唆を与える。また、保育を受ける主体は子どもであるが、中国では保育の検討に際して子ども権利の視点は不十分なため、今後、祖父母は子育て家庭に協力する際に、子どもの権利の視点を備え、検討していく必要があると考えた。

以上を踏まえ、本研究の目的は、以下の 3 つである。

第 1 に、3 歳未満の子どもの保育が制度化されつつある現代の中国において、祖父母の役割がどのように変化したかを明らかにする。

第 2 に、中国において、3 歳未満の子どもの保育制度の整備が進む自治体を選定し、子育て家庭の保育に協力する祖父母の実態と支援の課題を明らかにする。

最後に、第 3 に、中国における子育て家庭の保育への祖父母の協力の課題とこれからの展望について、子どもの権利の視点から検討する。

2. 研究方法

1) **文献研究**：行政文書と先行研究を用いて、保育制度の変遷と祖父母の協力の位置付けを検討した。また、3歳未満の子どもの保育と祖父母の協力の現状と課題を検討した(第1章、第2章、第3章)。

2) **インタビュー調査**：筆者は2019年の年末に、上海市の保育施設に訪問した際、保育施設側の協力を得て、市内の子育て家庭で子どもの保育に協力している祖父母を対象とする事前調査を行った。このフィールド調査から、祖父母の孫の面倒を見る意欲の程度やコロナ禍で調査協力が得られる環境が整っていないこと等による祖父母調査の難しさが明らかとなった。その結果をふまえて、本論における調査を次の二つに設定した。①3歳未満の子どもを持つ子育て家庭における保護者へのインタビュー調査(第4章) ②保育施設の責任者へのインタビュー調査(第5章)である。

3. 倫理審査

本調査は東洋大学倫理審査委員会の承認を得ている(承認番号:2021-0001S)。また、調査においては、一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理規程にしたがって実施した。

4. 研究の意義

3歳未満の子どもの保育制度の再建が行われた現代中国社会では、保育に関する研究については保育ニーズに対して供給の不足を唱える研究者が多い。だが、保育の分野では祖父母の協力を得ている一般の子育て家庭において、保育施設による保育と祖父母による保育がどのように関わっていくかが研究されてこなかった。本研究の意義は、子育て家庭の保護者と保育施設の責任者への調査をとおして、祖父母協力の価値・課題と必要性を明らかにすることができる。また、この研究のフィールドである上海市は、保育のニーズが高い地域であり、現在中国の中でも新しい保育の取り組みが展開されている地域である。ゆえに、上海市において保育の実態を調査することにより、保育制度が変化しつつある過渡期に、これからの新しい保育制度の構築に重要な示唆が得られると考える。

5. 各章の要約

本論文は、序章、第1章、第2章、第3章、第4章、第5章、終章によって構成され、各章の内容は以下のとおりである。

序章では、まず、研究の背景及び、研究の目的、研究の意義、研究の方法、論文の構成、用語の説明について述べた。

第1章では、中国成立後から現在に至るまでの保育政策の変遷を4つの段階に分けて保育の変遷と保育に影響を与えた要因を整理した。(1)中国成立後から改革開放までの計画経済期(1949年～1977年)では、政府は女性の経済建設する社会参加を促進するために託児所を増設した。この時期の託児所は子どもを預かることが主な機能であった。また、計画経済体制の下で公的な託児所が主流であった。いわゆる、女性の社会参加の促進と託児所を増設により、この時期では、祖父母は労働力として見なされた。

(2)改革開放から1991年までの市場経済期への移行期(1978年～1991年)では、経済対策の改革により、保育施設が減少した。また、祖父母は早期退職によって、孫育てに協力することとなった。(3)1992年の市場経済確立以降から2015年までの市場経済期(1992年～2015年)では、早期教育機関は主に預かる保育を行うわけではなく、教育の機能を果たすため、祖父母は子どもの保育の主な担い手となった。

(4)保育制度の整備期(2016年～現在まで)では、保育施設の開設が増えつつ、子育て家庭は、祖父母の保育への協力を主にして、保育施設の利用も始めた。

第2章では、中国における3歳未満の子どもの現状と保育施設の現状、子育て家庭の保育のニーズがあることと保育施設を増やしているにもかかわらず、保育施設が足りない現状と課題を検討した。また、中国の祖父母が子育て家庭の保育に協力することが多いという現状と祖父母の協力の程度により子育て家庭に協力する類型を整理した。さらに、現在に子育て家庭の保育に協力する祖父母向けの講座の内容を整理した。

第3章では、祖父母の協力の割合が高く、新しい保育が展開されている地域である上海市における保

育の課題を検討した。中国上海市において、保育制度・政策と先行文献を整理し、上海市における3歳未満の子どもの保育サービス情報プラットフォームへの分析を通して、(1) 保育施設において受け入れ可能な子どもが2歳児に集中していること、(2) 保育施設への監査・評価体制が十分に整備されていないこと、(3) 保育施設の数が不十分で偏在していること、(4) 保育施設における保育サービス情報の提示は全日制・半日制・時間制の組み合わせのみであること、(5) 保育施設の保育料が高額であること。以上の3歳未満の子どもが置かれる状況と保育の課題を確認したうえで、考察を試みた。

第4章では、上海市における3歳未満の子どもを持つ子育て家庭の保護者に焦点を当て、23名の保護者へのインタビュー調査を行った。その調査の結果として、まず、祖父母が協力することにより、保護者と祖父母には子どもの養育を巡って葛藤が生じている。しかし、保護者は子どもにとって安心・安全な保育環境を整えるために、祖父母による保育と保育施設での子どもの社会性の育ちの保育の両方に期待している。以上の結果を踏まえて、考察をした。保護者は、祖父母には子どもの成長発達における子どものケアのみならず、世代間の愛を含めた保育を期待している。保育施設には主に立地場所の利用しやすさ、子どもの安全、保育職員の専門性に期待している。保護者は子どもが集団保育の生活で、子どもは他者との交流を通して、社会的な役割と社会規範に関する知識を獲得することができるという子どもの社会性の育ちに期待している。

第5章では、中国・上海市における保育施設の5名の責任者へのインタビュー調査を行った。その調査の結果として、通常時に、保育施設に通う子どもの迎えと週末活動の送迎は多く祖父母が担当しており、祖父母は在宅の子どもの様子の共有を保育施設とのやりとりをしている。その一方、非常時な場面で、保護者は即時に対応できない時や保護者と連絡できない時に、祖父母が対応していることが少なくないということが分かった。また、こうした役割に加えて、保育を通して、祖父母は子育て家庭に協力することは責任であると確認できた。さらに、保育施設から子育て家庭に協力する祖父母への支援については、祖父母向けの子育てや育児に関する講座、サロン、イベントなどのことが少ないことから、祖父母への支援は不足であると分かった。子育てにおける祖父母の協力の必要性と子育て家庭に協力する祖父母に対する保育施設からの支えから考察をした。

終章では、まず、本論の各章の結果を踏まえて考察をした。また、中国における祖父母協力の展望と本研究の課題を提示した。

6. 考察

以上の研究を踏まえて、(1) 祖父母の役割の変化、(2) 子育て家庭に協力する祖父母への期待と支援、(3) 子どもの権利を具体化する祖父母の協力のあり方、について総合的に考察する。

(1) 祖父母の役割の変化

本研究では、子どもたちが、生まれ、どのような場所や人によって保育されていたのかということを中心に保育を歴史、制度政策から総合的に分析をした。本論文の第1章で論じたように、中国では、子育て家庭への支援については、様々の制度の改革により、子どもの保育の実態も変わった。1949年に中国成立後、経済の発展に必要とする労働力を増やすために、女性を労働力として活用する政策が打ち出された。この時代、主に国営企業に付属する保育施設(当時の名称:託児所)において、働きながら妊娠・出産・子育てをする子育て家庭に保育を提供していた。また、国営企業で提供される保育が利用できず、保育を必要とする都市部の子育て家庭では、子どもの保育は祖父母の手助けや近隣のわずかな助け合いがおこなわれていた状況だった。この時代の保育は、国営企業が必要とする女性に対して保育も提供するという形で、限られた女性や子育て家庭に提供されるものであり、そこで提供された保育は、国の責任を国営企業が、完全に担うことにより行なわれていた。つまり国営企業内保育と言える(図-1)。その時代では、祖父母は国営企業内で働いていた。その後、中国では経済発展のための様々な改革が行われた。具体的には経済政策、人口政策、家族政策、労働政策などの改革に伴い、国営企業の改革が行われた。つまり、国営企業の解体、民間企業による雇用が展開するなかで、保育の供給体制が大きく変化した。働くことと保育が一体型で提供される時代ではなくなったことから、働くことと保育の形が個別家庭で探られるようになる。地域ごとに社会的な保育の提供体制はその価格も内容も異なる。

そうした中で、働きながら子育てすることを選んだ女性や子育て家庭の保育は、その所属する家族や、少しずつ取り組みが始まっている地域の保育支援の資源を様々に活用しながら行われていくことになる。とりわけ、急激な少子化が顕著になった現代では、優秀な女性労働力の確保と産む性としての女性支援の両立は重要な政策課題となっている。だが、そうした子どもの養育が家族だけでは行えないし、社会的な保育制度が未整備の時代にあって、子どもの成長発達を重視することも重要になっている。こうしたなかで、子ども自身の育ちに対して、祖父母の子どもの養育への関与の期待や役割がいつそう重要になっている。祖父母は代替の役割を果たしていたと言える。

本研究では、この段階をとらえて、子育てをする女性たち自身や取り組みが始まっている保育施設が、祖父母をどのように位置づけ、子どものより良い保育の実現に努力をしようとしているのかということ明らかにすることができた。この時代について、筆者は祖父母を子どもの養育の一翼に位置付け、保育施設や地域の様々な支援機関が参加する祖父母協力型保育時代と位置付けた。

以上のように、祖父母の役割は国の戦略によって、国営企業労働者から保育の代替、保育の補完の役割に変わってきたと考えられる。

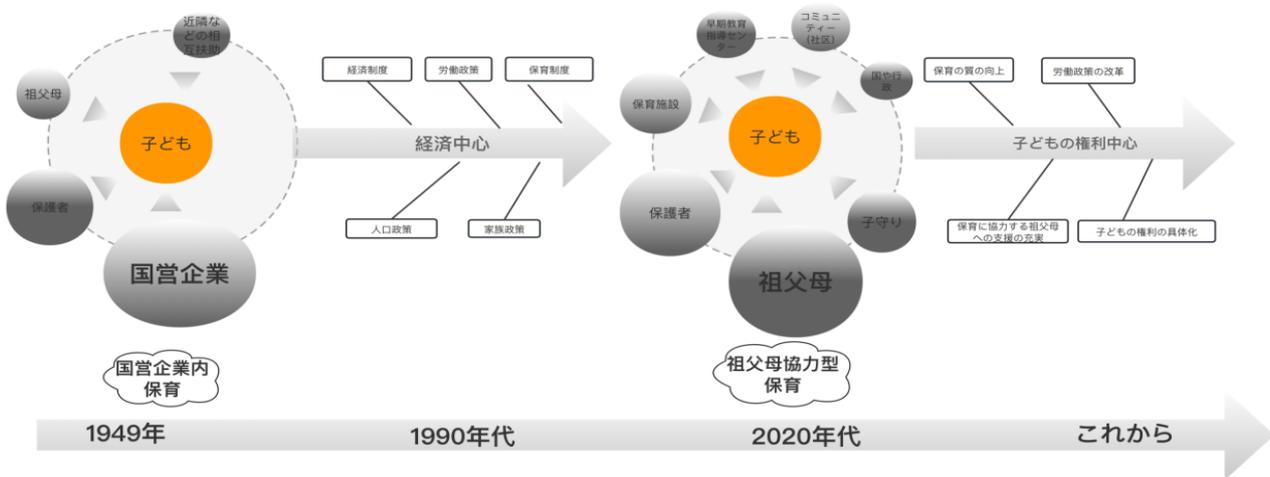


図-1 1949年中国成立から現在まで子育て家庭への支援の形およびこれからの展望(終章より筆者作成)

(2) 子育て家庭に協力する祖父母への期待と支援

ここでは、祖父母に対する保護者や保育施設の期待と祖父母の必要とする支援を論じる。

① 子育て家庭に協力する祖父母への保護者と保育施設の期待

子育て家庭に協力する祖父母に対して、保護者や保育施設の責任者がどのように理解し、期待と課題を考えているかということについて実態調査を通じて明らかにした。

現在、祖父母の協力を得ることは、中国社会における3歳未満の子どもの子育てにおいて一般的な形態である。しかしながら第4章の保護者への調査から、祖父母が協力することにより、祖父母は保護者と社会変容、成長背景、文化的環境の違いによる子育て観の違いのため、子どもの養育や家族関係を巡って葛藤が生じていることが分かった。

子どものより良い成長発達を実現、特に子どもの社会性の成長のために、保護者は保育施設における保育および祖父母による保育をともに期待している。また保護者の労働環境の未整備により送迎時間の確保が困難であり、祖父母に送迎の役割を期待している。

また、第5章の保育施設の責任者への調査から、保育施設にとって、祖父母の存在は、保育施設に提供するサービスの限界を乗り越えることである。楊¹(2020)は論じたように保育施設の未整備という状況

¹ 楊菊華 (2020) 「論3歳以下嬰幼兒社会化托育服務中的“五W服務”(3歳未満の子どもに対する社会化保育サービスにおける5つのWについて)」『福建論壇』人文社会科学版 1, 167-177.

がある。そのため、保護者は子どもの降園時と緊急時の対応という役割を祖父母に期待している。以上から見ると、労働環境と保育施設が未整備であるため、祖父母は保護者にとっても保育施設にとっても、子育て家庭の代替補充の役割を果たしていると言える。

また、第4章の保護者の語りから、祖父母の愛は子どもにとって重要なことであることを明らかにした。愛という感情は中国の伝統的な文化の継承であり、歴史的に語られてきたものである。特に祖父母には孫に対する世代間の愛がある。さらに、中国で、祖父母は離れて暮らしても家族である。祖父母を含めた人間関係の中で育つことは、子どもにとって重要であると考えられている。祖父母は子どもの成長発達に、子どものケアのみならず、世代間の愛を含めた保育を行っている。一方、第5章の保育施設の責任者調査では、祖父母は子育て家庭に協力することは自分の責任であるという家族観により、積極的に関わっていると理解していることを明らかにした。第5章に述べたように、中国の伝統的な文化背景の影響を受け、祖父母は孫育てが家族の責任であると考え、孫の世話を老後に必要な任務と考えていることである。

以上のように、祖父母の存在は子育て家庭の3歳未満の子どもの保育の代替補充の役割を果たしていると見られてきた。その重要性のみならず、祖父母の孫の養育に対する愛や責任という中国社会における継承される文化の継承の役割を担っていることを明らかにした。祖父母は家族として、子育て家庭の人間関係に重要な一環として、子どもの養育、子どもの成長発達、子どもの権利の実現に重要な役割を果たしていると見られる。

②祖父母の必要とする支援

本研究が明らかにした祖父母の愛を含め、家族の継承ができる保育の実現が望まれている。また祖父母は労働力としての支援ではなく、子育て家庭の祖父母の文化の継承者、保育協力としての尊敬・尊重、支援されるべき存在であり、祖父母の役割を期待している。

子育て家庭に協力する祖父母への支援に求められることについて考察する。本研究では、第4章の調査から出てきた保護者と祖父母の葛藤ありながらも、祖父母の孫の養育に対する愛や責任それにより、保護者は祖父母に対して期待している。その葛藤を克服するための支援は不十分であると見られる。第5章の保育施設の責任者への調査から、保育施設において、祖父母が参加しやすい講座が多いが、祖父母向けの育児に関する講座が少ないという実態を明らかにした。2021年7月20日に発表された「人口の長期的な均衡ある発展を促進するための生育政策の最適化に関する中国共産党中央委員会および国務院の決定」には、祖父母ができる限りの支援と援助を子どもに与えることが言及されている。このように、行政は祖父母を子育て家庭の支援者として位置付けているが子育て家庭に協力する祖父母への支援は言及されていない。

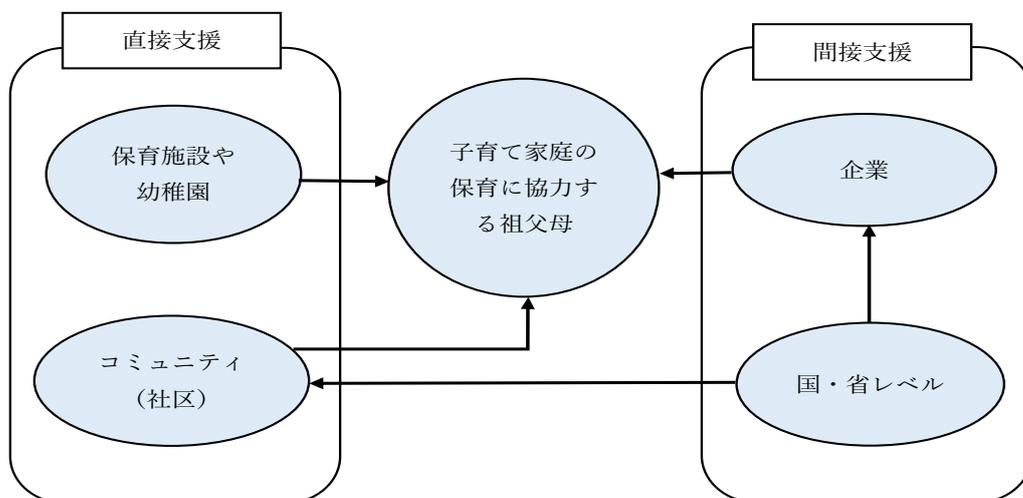


図-2 子育て家庭に協力する祖父母への支援に求められること（終章より筆者作成）
注：省レベルとは省、直轄市、自治区のことを指す。

調査から保護者と保育施設側は、葛藤や課題を感じながらも祖父母の協力を期待していることが分かった。3歳未満の子どもの保育に協力する祖父母への支援を、保育制度に多様な形で取り込む必要があると考える。図-2に示したように、祖父母への支援は大きく分けると間接支援と直接支援があると考えられる。具体的には、祖父母と直接に関わっている保育施設とコミュニティが開催する講座や懇談会などの支援には限界があるために、国・省レベルから保育施設とコミュニティに支援を行う必要がある。また、企業の雇用労働環境の整備は、保護者に対して育児支援の一環であり、祖父母の協力の限界を乗り越えようと考えられる。このように、国・省レベル、コミュニティ、保育施設、企業が協働できれば、子育てに協力する祖父母への有効な支援になりうる。

(3) 子どもの権利を具体化する祖父母の協力のあり方

現在の家庭内、社会での保育が様々な形で行われているなかで、保育の対象になっている子ども自身の権利の視点の不足を顕在化させることができた。ここでは、祖父母の保育への協力について子どもの権利の視点から考察する。

祖父母の保育への協力、参加が中国における文化や暮らしの継承者としての子ども支援という重要な価値をその役割に込めていたということを示すことができた。だが、子ども自身がこうした、祖父母協力型の保育についてどのように感じているのか、その成果と課題についてどのように感じているのかということについては、まだ中国社会の保育制度や保育施設の取り組みが、子ども自身の成長発達への施設と祖父母を含めた家庭の役割について、その協働性について実践の在り方について、検証は行われていない段階である。

日本の保育は、家族と保育士の「共育て」と言われる。また、日本の保育所保育指針の中核としている子どもの非認知能力が重視されている。こうした考え方は子どもの権利の視点から考えると子どもの権利条約の批准国である中国でもこの考え方は認識されていると考えられる。しかし、序章に述べたように中国政府が子どもの権利委員会に提出した定期報告書、子どもの権利委員会の総括所見、2021年の保育施設の指導大綱から見ると、保育内容に対する期待は非認知能力の源になると考えられる子ども相互の関係性などへの言及が少ない。それにより、中国では子どもの権利についての認識は不十分である。また、第4章保護者の語りから、祖父母は子どもに安心して安全な保育の環境を提供できる。そのため、子どもをまんなかに、多様な大人が協力して、子ども自身が持つ成長発達を最大限できるように支援することが求められる。また、子どものより良い成長発達のために、多様な講座や研修が求められる。

7. 中国における祖父母協力の展望

今後、子どもの権利を中心とし、少子化対策の見直し、子育て家庭の保育に協力する祖父母への支援の充実、保育施設の量の増加や保育サービスの質が向上する時代を迎える。保育は整備されつつあるが、祖父母の協力が不可欠である。これからの中国社会が目指す男女共に仕事と子育てを両立できる社会の実現のために、祖父母の協力の限界を乗り越え多様な家族の形や文化に対応できるような保育が求められる。

8. 本研究の限界と課題

本研究は、子育て家庭への祖父母の協力について検討したものであるが、役割の当事者である祖父母に対する調査について、調査協力者の語りの安全性などの保障する環境の用意について限界があり、また新型コロナウイルスの影響で調査を行う環境が整備できなかったため、上海市での祖父母に対する調査を行えなかった。

この調査は、非常に重要なものであると考えている。よって祖父母の語りを聞くことは課題として残す。今後、祖父母の調査協力者を把握して、現地で安全、安心して実施できる調査環境を整えて、祖父母に対する調査を実施する必要がある。